

令和2年10月21日

発 言 者	発 言 要 旨
菊池(大) 委員	<p>来日外国人による犯罪が多様化している中、対応する通訳等の体制を整えることは重要である。通訳等に係る事業内容及び指定通訳員の体制はどうか。</p>
参事官(兼) 刑事企画課長	<p>現在2名の職員に語学学校への10日間の委託研修を受講させている。語学は英語と北京語である。 令和2年9月末時点の指定通訳員は26人であり、8言語に対応することが可能である。対応可能な8言語は、英語、北京語、韓国語、ロシア語、ベトナム語、タガログ語、タイ語、広東語である。</p>
菊池(大) 委員	<p>指定通訳員が確保できない場合はどうするのか。</p>
参事官(兼) 刑事企画課長	<p>警察部内の指定通訳員の外、警察部外に委嘱している民間通訳人に必要に応じ依頼している。民間通訳人は令和2年9月末現在で75人おり、スペイン語、台湾語、ポルトガル語等の27言語に対応可能である。</p>
矢吹委員	<p>外国人の言語対応に関連し、県警が翻訳アプリのVoiceTra(ボイストラ)を積極的に活用しているとの報道があった。簡単な意思疎通であれば非常に有効であるが活用実績はどうか。</p>
理事官(兼) 地域課長	<p>翻訳用タブレットは平成29年2月に配備している。また、昨年9月からは多言語コールセンターの協力を得て、英語、中国語、韓国語の3か国語について簡単な通訳対応が可能である。 翻訳用タブレットについては交番、駐在所、警察署に配備し遺失、拾得、地理案内業務に活用している。令和2年9月末現在20件の使用言語は中国語19件、ベトナム語が1件となっている。</p>
菊池(大) 委員	<p>令和元年度におけるワンストップサービス推進の費用の内訳及び利用実績はどうか。</p>
参事官(兼) 交通企画課長	<p>令和元年度の決算額は、負担金1,623万2,000円、回線使用料やシステム構築に関わる諸費用等8,566万6,440円、合計1億189万8,440円である。 利用実績は、運用を開始した令和2年1月から9月末現在で1,867件、窓口での申請件数を含めた総申請件数の3.7%となっている。月ごとの申請率は伸びており、9月単月では総申請件数の10.4%と申請率が上がっている。</p>
菊池(大) 委員	<p>警察職員宿舎整備事業費の内訳、職員宿舎の数、入居率等はどうか。</p>
参事(兼) 会計課長	<p>警察職員宿舎整備事業費は、職員宿舎の外壁改修工事や平成17年度以降に建設した職員宿舎3か所の建設費の債務返還の償還金等に要した費用であり、支出額は8,092万5,171円である。 本年10月1日現在、職員宿舎を60棟887戸保有しており、入居率は83%である。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
菊池(大)委員	報告があつたいじめの認知件数とその対策について、いじめの認知と解消の定義、また、件数の推移はどうか。
義務教育課長	<p>いじめの認知については、被害者が「嫌だな」と感じたものをアンケートや個別の面談を通じて行為の事実を確認したものを、1件とカウントしている。</p> <p>また、解消については、①行為が止んでいることが3か月超続いていること及び②被害者が心身の苦痛を感じる事がなくなったことをもって解消と扱っている。</p> <p>本県の認知件数の推移は、国が基本方針を示した平成25年度から増加の傾向にあり、28年度をピークに29年度に一旦減少に転じた。その後、29年度の国の方針見直しにより、前述のとおり認知の考え方となり、ふざけあつての行為や善意で行つた行為であってもその被害性や相手に苦痛を感じさせてしまったことに着目し、いじめに該当するかどうかを判断することとした。これにより本県のいじめの認知件数は30年度以降、増加に転じ、小中高等学校、特別支援学校の合計で1万件を超える認知件数となっている。</p>
菊池(大)委員	子どもベンチャーマインド育成事業について、令和2年度が3か年事業の最終年度となる。今後も郷土愛を育てる事業については、これまでやってきたことを活かすよう取り組んでほしい。
矢吹委員	青年の家の利用実績はどうか。
生涯教育・学習振興課長	<p>令和元年度の青年の家の利用人数は延べ9,106名となっている。年度終盤にコロナの影響を受けて落ち込んだが、青少年ボランティアの研修をはじめ幅広く利用してもらっており、コロナ禍の中でも、オンラインでの研修会なども取り入れて事業を展開している。</p> <p>施設として老朽化はあるが、県全体の施設の長寿命化の考え方に従いながら、エアコン整備や修繕等に取り組んでいる。</p>
矢吹委員	開設当時とは求められる施設の機能や性格が変わつたと思う。時代に合わせた運営や施設の維持のみならず他の要望も聞いた上で検討してほしい。
矢吹委員	英語教育に関して、中学校教員の英語資格等の取得率はどうか。
義務教育課長	令和元年度英語教育実施状況調査によると、英検準一級相当の「CEFR」B2の取得状況の全国平均が38.1%であり、本県は25.2%である。
矢吹委員	米沢市内の図書館において英語の絵本を読み流す事業を始めたと聞いた。子ども達が英語のシャワーを浴びることで上達につながる。様々な方法に取り組んでほしいと思うがどうか。
義務教育課長	今年度より新しい学習指導要領が全面実施となり、3、4年生が外国語活動として英語に慣れ親しむと位置付けられている。耳で聞いて、話して慣れるというようなことをぜひ小学校でも取り入れていきたい。ALT等のネイティブの英語を聞き、英語に慣れ親しむ状況を作っていきたい。
矢吹委員	県立山形東高等学校などで探究科が導入されているが、探究科の設置目的と現在

発 言 者	発 言 要 旨
<p>高校改革推進 室長</p>	<p>の状況、他の科との関係性等はどうか。</p> <p>令和3年より大学入試制度が変更となり、思考力、判断力、表現力等が重視されることを踏まえ、これからのグローバルで変化の激しい社会の中で主体的に課題を見つけ、仲間と協働し乗り越えていく力を身につけるため、探究型学習を牽引する学科として設置された。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>探究科の生徒たちは、自分たちが学ぶことができるカリキュラムの特性を活かし、積極的に取り組んでいる。</p> <p>学校内で探究科の学習成果が広がることで普通科の生徒たちも良い影響を受けており、今後も普及に努めてまいりたい。</p>